

○ 急げ集落営農！！ 耕畜連携とエコ米推進 わずか5ヶ月で組織化達成 羽貫田集落の取組み

J A あぶくま石川管内の平田村羽貫田（はぬきた）集落は、阿武隈山系の標高約500メートルの中腹にあり、畜産・米・葉タバコの産地である。担い手不足や遊休農地の対策が深刻で、危機感を持ったリーダーのもと短期間で集落営農組織を立ち上げ、耕畜連携とエコ米の推進によって、集落の活性化を目指している。

平成18年7月にJ A あぶくま石川と須賀川普及所・村が中心になり、第1回の「集落営農に向けた座談会」を開き、地域の農業をどうするか？・・平成19年度から導入される品目横断的経営安定対策の課題に対し、農家に多くの戸惑いがあった。

集落での話し合いにより、中核リーダーを中心に組織作りを検討。集落の今後の方

向を模索し、関係機関の協力を得て、農用地利用規程の策定が進められた。ビジョンには、地域の主産業である畜産と米を結びつけた耕畜連携とエコ米の推進、さらに農地・水・環境保全向上対策への取り組みも検討された。

その結果、わずか5ヶ月という短期間で、昨年12月に羽貫田集落・農用地利用改善団体設立総会を開き、集落の実農家26戸のうち、20戸で構成する集落営農組合が誕生した。集落リーダーと3戸の農家で構成する農作業受託組合が農作業を請け負い、集落ぐるみでエコ米の栽培に取り組む予定である。

また、中山間地であるため、条件不利な水田は、畜産農家の放牧や飼料作物への転作も視野に入れ、畜産との有効連携の検討も進める。畜産以外の農家の大半は兼業農家で、水田を農作業受託組合に委託することで、農機具経費などの削減を目指す。

平成20年度には、村に「道の駅」が出来ることから、新たに野菜栽培や加工品に取り組み出荷する予定である。



JAグループ福島県域営農センター・福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

(福島市飯坂町平野字三枚長1-1 Tel 024-554-3072 Fax 024-554-6022)

<http://www.ja-fc.or.jp/tyouu/onchu/index.html>

“いわき市における集落営農シンポジウム”
 (認定農業者・関係者200名の参加で盛り上がる)
 日時：平成19年1月23日
 場所：報徳苑



市地域担い手育成総合支援協議会会長・高木正吉氏（JAいわき市経営管理委員会）は、品目横断的経営安定対策の受け皿としての集落営農の可能性について強調した。

県農林水産部経営支援領域普及教育グループの田村完主幹による県内の集落営農の取組み、つづいて、特定農業法人(有)高ライスセンターの佐々木教喜社長による法人の取組みについての紹介がされた。

集落営農の可能性を探るためJA福島中央会の永石正泰参与をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、いわき市ならではの集落営農を行うための活発な意見交換が行われた。

○ いわき市の集落営農の現状と課題

- ・ 一戸あたり水田面積が60haと小さい
- ・ 湿田が多く転作率が低い
- ・ 集団転作も少ない
- ・ 生産調整の未達成地区が多い
- ・ 基盤整備事業の進捗状況は40%強
- ・ 高齢化等による後継者不足
- ・ リーダー不足

- ・ 混住化による共同意志の低下
- 主な意見
 - ・ 10年後に農地と農業はどうなる
 - ・ 生産組合を立ち上げたが今後は不安
 - ・ 現在は受託できているが、後継者が居ないので、農地の流動化と受託組織の法人化は必要
 - ・ 基盤整備が終わっていないと品目横断的経営安定対策に取り組むのは無理
 - ・ 集落内で真剣に考えているのは、担い手や受託農家であり、一般の農家は認識が足りない、
 - ・ 農業後継者も認定農業者もいない、定年退職者の力を借りないと壊れてしまう。だれがまとめるのか。(人)
 - ・ 集落営農を進めるに話がまとまらない。
- まとめ
 - 女性の力を借りる(男性が女性をより一押ししてくれると動きやすい)
 - やれる所からやる(必ずしも品目横断的経営安定対策のみに限らない)
 - 担い手がいない集落が多く、地域の水田を今後どうするかの話し合いの場を設けること
 - リーダー不足と言うが、リーダーが全てをするのではなく、集落内の人々の能力を活かせばよい。そのサポートを行うのが市やJA関係機関の役割である。
 - サラリーマン化した集落が多いことから、勤めながらできる集落営農を検討
 - 消費地なので高齢者や女性を活用した作物作りを進め、地産地消型の集落営農で進める
 - 一人でやると病気やけがなど不安もあるが、集落や地域がまとまって農地の維持を考えていくことが必要。